

写真で見る魚津の蜃気楼

石沢 啓一(魚津蜃気楼研究会)

魚津蜃気楼研究会の結成からおよそ20年、その間に会員によって蓄積されてきた蜃気楼の写真資料から、近年のものを中心に代表的なものをスライドショーで紹介する。

会員の撮影地点はおもに魚津市北中(懐かしの灯台塚)と魚津港北側で、それぞれの場所は富山方向から黒部方向まで見渡すことができ、蜃気楼の観測に適している。また、魚津市以外在住で各自の地元に近い場所で観測・撮影に取り組んでいる会員もいる。過去には、会員を富山湾岸の黒部から氷見にいたる各地に配置し、多点観測に取り組んだこともある。

富山湾の蜃気楼の被写体として代表的な場所は、黒部市生地付近の灯台や建物群、富山新港の火力発電所、富山市草島の火力発電所、富山市岩瀬付近の工場群、富山市中心市街地のビル群やアルペンスタジアム、富山市水橋～滑川市の風景、そして沖合いの船舶などである。ときには呉羽丘陵や氷見～能登の山並みなど、高い位置が変化する場合もある。

また近年は、建設が進む新湊大橋が変化のわかりやすい被写体となっている。かつては琵琶湖大橋がZ形などに変化した蜃気楼の写真に目を奪われたが、富山湾でも同じような変化を楽しむことができるようになった。

黒部市生地付近は比較的短時間に多様に変化する傾向があり、反転した堤防と波消しブロックがワニの口のようになったり、昨年5月5日のように完全に反転した大きな変化が見られることもある。

富山市や射水市を中心とした方向は、蜃気楼発生の多い午後には逆光となり、伸び上がったシルエットがバーコード状になったり、つながった反転像が橋梁のように見えたりする。

魚津の蜃気楼は江戸時代から知られ、名所として今日まで人々の関心を集めている。魚津蜃気楼研究会は、魚津の蜃気楼を見に来られる方々への解説員としての役割も担いながら、今後も蜃気楼の記録蓄積と普及に努めていきたい。